

| | |
|------------------|---|
| Title | 前田家本枕草紙, 四冊 |
| Sub Title | |
| Author | 幸田, 成友(Koda, Shigetomo) |
| Publisher | 三田史学会 |
| Publication year | 1928 |
| Jtitle | 史学 Vol.7, No.1 (1928. 3) ,p.142- 143 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 書評 |
| Genre | Journal Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19280300-0148 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

とを信ずる。

本書の内容を簡単に紹介すれば、第一章緒論に於いては神話學の意義から説きおこし、それと民俗學、土俗學との關係を論じて、神話學が文化人類學の一分科たる土俗學の一分枝であつて、宗教學や民俗學と姉妹關係にあることを説き、更に古代から現代にいたるまでの神話學の發展を叙し、その中に於いても殊に、教授自身が支持せらるゝ文化移動論を主張するところの所謂マンチエヌター學派の説をつよく紹介された。第二章本論に於いては神話の起原、その成長、その特質を論じ、第三章方法論に於いては材料の蒐集法と神話の分類法とを論じた後、比較研究法に論及して、統計的及び人類學的二研究法を特に詳説され、第四章はかくのことき研究法の應用によつてなれる白鳥處女説話の研究であり、第五章は鰐魚説話の研究であつて、この兩篇は著者自らその創意と苦心とを認めらるゝところの力作である。第六章は結論として本書全體の論述の總收をなし、最後に神話學の新職分を論じてゐる。とにかく本書は、『文化人類學的方法を以て世界の神話傳説を研究し、それを古代史闡明の證徴に役立てようとしてゐる』最近の神話學界の傾向の立場に立ち、泰西の諸學説を綜合してなれるものであつて、神話學を研究せんとするもの是非一讀すべきものである。(松本芳夫)

古賀家本西遊錄

プレットシユナイデルの支那中世史叢考を食讀したことも過去

となつたが、長春真人の西遊記とか、耶律楚材の西遊錄とかいふやうな書名は忘れ得ぬ。巴里ギョートネル書店から來た最近の目錄(九十一號)を見ると、

Si yeou lou (Voyage dans l'Ouest) de Ye-lin Tch'outsai, ministre de Gengis Khan. Textcomplete, publié pour la première fois par M. Kanda Kiichiro, 1927

とある。M. Kanda kiichiro は文學士神田喜一耶氏のことと、兼て相識の間柄であるため、書を飛ばして同書懇望の意を告げた所、幸に一本の惠贈を得た。神田氏が宮内省圖書寮所藏の漢籍取調中古賀家の献本中に本書を發見せられ、而もそれが老學叢談に收められた西遊錄とは大いに相異してゐるので、段々調査せられると、古賀家本の原本は東福寺普門院の藏本で、普門院の藏本は大抵同院の開祖聖一國師が將來したものである。聖一國師が入宋したは四條天皇の嘉禎二年で、蒙古の太宗七年に當り、國師と耶律楚材とは時を同じうしてゐる。然も文和二年に編纂した普門院の藏書目錄の中に、西遊錄が見えて居るから、普門院本の西遊錄は確に聖一國師が齎し歸つたもので、完本であることはいふまでもないといふことになり、遂に自費を以て本書を印刷せられた次第である。喜一耶氏の祖父に當られる香嚴翁には自分は在阪の節入落して一再ならず拜晤したことがある、喜一耶氏の書物好きは確に香嚴翁の遺鉢を傳へられたのであらう。(幸田成友)

前田家本枕草紙 四冊

公益法人育徳財團が前田家尊經閣所藏の稀觀本を續々複製せられることは、獨り前田家にとつてのみならず、我學界にとつて大いなる慶事と考へる。由來個人の藏書を閱覽するに要する幾多の手数は我等が常に味ふ一つの苦痛であるが、育徳財團がその豊富なる實力により、我等が容易に窺ひ難き尊經閣の秘本をコロタイプ版により原本を摹寫せしめる程度にまで複製せられる點に對し、我等は感謝の辭を吝しまざる者である。

今回出版せられた枕草紙の古鈔本は、「はるはあけほの」巻「一冊」「正月一日の巻」二冊、「小白河の巻」一冊、「めてたき物の巻」一冊、都合四冊で、製本も原本通り即ち胡蝶装で、文字も原本通り一紙兩面に印刷されてゐる。書體だけを見て直ちに鎌倉時代の古鈔本と點頭せられる。

枕草紙には原本が多い、それを系統によつて區別すると、第一が北村季吟の春曙抄の系統のもの、第二が耆及愚翁校勘の奥書ある三卷本の系統のもの、第三が群書類從所收の宸翰本の系統のものとなる。此の三系統の相違は章段の順序と本文の字句の異同によることはいふまでもないが、前田本は以上三系統の中どれにも屬しない全くの異本である所に、此の本の價值を認め得る譯である。由來本文校正(Text critic)は、文學といはず史學といはず、根本的研究にとつては最初の必要條件であるのに、動もすれば閑却せられる。閑却せられないまでも、單に多くの異本を集めて校勘するを以て足れりとし、對校した異本の部數を以て誇る傾がある。然しながら同一系統に屬する本を何十部あつめて校勘した所で、それは徒勞に過ぎない。異本を分類して系統を作り、異つ

た系統の中の最も善き本を集めて彼此對校するのが、本文校正の本旨である。從來の三系統の何れにも屬せざる前田家本の枕草紙が刊行せられたことは、同書研究者にとつて大なる幸福であると信ずる。

以上の外に育徳財團は前田家所藏の枕草紙の殘缺本で、表紙に「四季物語歎之由ノ書」と題するものを、縮尺してコロタイプ版に附せられ、又前記の四冊とこの殘缺本の本文とを活字に印刷し、「前田本まぐらの草子」と題し、瀟洒なる裝釘を加へて出版せられた。用意周到といふべきである。

本刊行物に先ち、同團は「重廣會史」上帙十冊を複製頒布せられたが、之は下帙の刊行をまつて紹介したいと思ふ。(幸田成友)

日本考古學

(後藤守一著
四海屋發行)

輒近、我が考古學研究の進展は學界に於ける顯著なるもの、一て、これは各地に於ける郷土史の研究と、朝鮮に於ける斯界の開拓の賜物であらう。隨つて新獲の資料に因つて舊說中訂正され、或はさるべきものも一二でない。従つてこれ等調査研究の部分的のもの、上梓は尠くないが、その全般を概見し得べきものは、この十年間に未だ公刊せられず、斯學に伍する吾等の常に遺憾とするところであつた。然るに今次、帝室博物館監査官として、且つ斯界の新進學者として周知の著者は多年研究の一端を發表せられた『日本考古學』を公刊し、幸に吾等多年の渴望を醫せしめられたのは誠に欣喜に耐へず、學界の爲め慶賀の辭を捧ぐべきである。